

テレビ東京『ひとりのDがひとつの店にひと月通う』
「2026年5月度ギャラクシー賞月間賞」を受賞！



テレビ東京が2026年5月16日(土)に放送したバラエティ番組『ひとりのDがひとつの店にひと月通う』が、「2026年5月度ギャラクシー賞月間賞」を受賞しました。

この番組は、一人のディレクターが東京・墨田区の創業60年という大衆酒場に31日間通い詰め、開店から閉店までカメラを回し続けた密着企画です。店主とその家族、そして店を支える常連たちとの“様々な人間ドラマ”を丁寧に描き出し、選評では「終盤には『もっと見ていたい』と寂しくなってしまう、そんな余韻が残る見心地の良い番組」と高く評価されました。

テレビ東京の同賞の受賞は、2025年12月度のドラマ『シナントロープ』（2025年度ギャラクシー賞テレビ部門選奨を受賞）以来となります。

ギャラクシー賞はNPO法人放送批評懇談会が、日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀な番組・個人・団体を顕彰するために1963年に創設したものです。

審査は、放送批評懇談会の会員から選出された選奨事業委員会が担当し、テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門が対象。テレビ部門は毎月、委員の推薦で「月間賞」を選定し、これがギャラクシー賞の入賞候補作品となります。

◆NPO法人放送批評懇談会 選評

東京・墨田区の小さな居酒屋に一人のディレクターが1カ月密着するシンプルな番組。強烈なキャラクターや過剰なサービス、特別な事件があるわけではない。ただ店とそのコミュニティを丁寧に描き出し、余計な“負荷”を感じさせない。終盤には「もっと見ていたい」と寂しくなってしまう、そんな余韻が残る見心地の良い番組だった。

◆企画・演出 古川 智（テレビ東京）コメント

タイパ、効率、最適化。そんな言葉がタイムラインを埋め尽くす時代に、あえて時計の針を逆回しにしてみました。通常の番組なら、テンポ良くわずか「数分」で紹介される街の名店。もしそこに、「ひと月」ガチで通い詰めたら、一体どんな景色が見えてくるんだろう？ そんな、最高に贅沢で不器用な思いつきが、ギャラクシー賞という最高のご褒美をいただくことになりました。

年末年始返上。毎朝9時、放送作家さんとディレクターさんとリモート会議で進捗を繋ぎながら、お店の呼吸に寄り添い続けた31日間。そこには、小手先の演出では映し出せない、剥き出しの人間模様があったように感じます。

コンテンツが瞬時に消費されていく今だからこそ、これこそがテレビだからできることなのだと、作り手である私自身、時間をかけることの価値を改めて強く実感させて頂きました。

伴走してくださったハウフルスさん。そして何よりも、我が家のように温かく迎え入れ、すべてを曝け出してくださった三祐酒場さん。あの過酷な31日間を、執念で密着し続けてくれた田中光ディレクター。関わってくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

◆『ひとりのDがひとつの店にひと月通う』 番組概要

ディレクターがたった一人で一つのお店に通い続け開店から閉店まで31日連続でカメラを回したら面白いものが撮れるんじゃない!?というコンセプトのもと、「出沒！アド街ック天国」を制作するスタッフが長期密着した新企画。

東京・墨田区、常連に愛され創業60年になる魅惑&美味すぎる大衆酒場“三祐酒場”がある。取材期間は年末年始の一番忙しい2025年12月15日～2026年1月15日まで！毎日ディレクターが通い、カメラを回した時間...270時間！店主・その家族・お店を支える常連たちによる“様々な人間ドラマ”が撮れちゃった！物語はどんな結末を迎えるのか!?

放送：2026年5月16日(土) 昼12時45分～14時15分
出演：八嶋智人、橋本直（銀シャリ）、本仮屋ユイカ、池田美優
企画・演出：古川智（テレビ東京）
企画・ディレクター：田中光（ハウフルス）
演出：堀江昭子（ハウフルス）
構成：甘楽大輔
プロデューサー：森本泰介（テレビ東京）
佐藤実（ハウフルス）、田中優（ハウフルス）
配信：動画配信サービス「U-NEXT」にて見放題配信
▶U-NEXT：https://t.unext.jp/r/tv-tokyo_pr

以上